

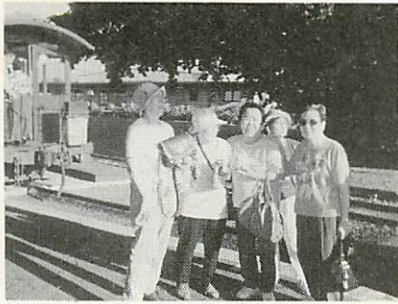


第 40 号

創立七十周年をむかえて

同窓会会長 高女13 湊 くに
(旧 大月)

母校の創立七十周年を記念して同窓会総会が平成九年十一月十六日、東京プリンスホテルで行われました。大久保理事長を始め各校の校長先生方、懐かしい恩師や同窓会名誉会長の白井



砂糖きび列車(中央が湊会長)

先生始め支部長、又遠方より参加していただいた皆様に厚くお礼申し上げます。記念品のテレホンカードは森本晴生先生の援助のおかげです。

作るなら今しかない!と決断して出来上がった七十年史「卒業生が語る東京文化学園の七十年」。出来上がるまでに二年余かり、夏休みも返上し皆で頑張りました。原稿の遅れ、意見の衝突などで朝日新聞出版サービスの高橋寛様に迷惑をかけお世話になりました。皆様より御丁寧なお励ましの言葉や暖かいお手紙をいただき感謝しております。

初代校長新渡戸稲造先生は昭和八年八月、カナダで開かれる太平洋会議へ出発に先立ち七月

十五日に学園関係者全員を集め、私は暫く留守をするが森本先生始め立派な先生方にお願しているから安心です。先生と生徒は敬愛の念を持ってお互いにお互いの関係を守って行けば、私の帰る頃は学校中が「後光」でまぶしくて」と笑顔で手を振って講堂を去られた先生のお顔が頭から離れません。

七十周年の節目にあたり、森本静子先生、豊納まつ先生を中心に偉大な先輩の母校愛より生れ御苦労なさって作っていただいた同窓会をもう一度皆さんと一緒に考えて見ましょう。厚吉先生は、只昔を思い出し懐かしむだけの消極的なものであつてはならない。皆歩調を揃え固く手を握って共同の悩みの解決に前進して行きましょう。

若い人達は十代、高齢者は八十代のへだたりのその方々が、東京文化の同窓であるという一本の絆を基に、各校の幹事長を中心に校内理事・本部役員が手をたずさえ、縦横の「和」をモットーに伝統を大切にしています。平成十年四月より小学校卒の三人のたくましい男性が理事として参加して新しい風を吹き込んで下さると期待しています。二万余の皆さん機会ある毎に

母校に立寄って下さい。そして一人でもよい生徒を東京文化に送って下さい。
母校七十周年記念行事に多面で協力していただいた同窓関係の皆さんに厚くお礼申し上げます。

ハワイ三島めぐりの旅

同窓会副会長 高女16 石川 悦子
(旧 大沢)

期日98年1月30日～2月5日
参加者 二十名

これから始まる7日間の旅行について湊会長より挨拶と担当者への注意があり、その後、 Honolulu に向けて空の旅が始まりました。6時間程して Honolulu 空港に着く。予想に反して大分涼しくて上着は離せない。バス

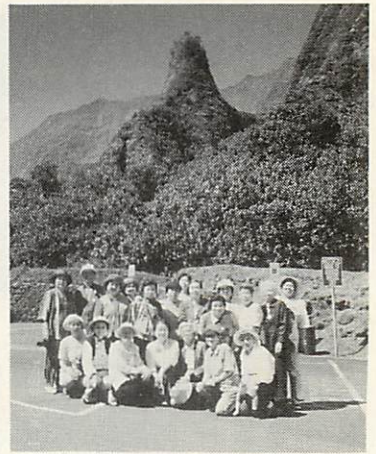


マウイ空港

係の皆様は厚く厚くお礼申し上げます。皆さんに励まされ又新しい勇気を出して仲よく積極的に前進する覚悟です。よろしくお願いたします。

でビーチに面したマリオネットホテルに旅装をとく。
31日、早く目を覚ますと、すでに海辺を散策する人、写真を撮り始めている人など思い思いに楽しんでいる。次いでピュッフェスタイルの朝食を始める。豊かな果物に舌鼓を打って、ゆったりした雰囲気味わった。マウイ島は、諸島中2番目に大きく面積が一九〇二km²、人口約十

万、山あり谷ありの変化に富んだ地形をもっている。バスは海岸ぞいに走りハイカラに着く、ハワイ語で「太陽の家」という意味であるそうだ。さんこの工場に立寄って鮮やかなさんごを手にとり、一寸幸を感じる。イアオニード(針の山)で全員揃っての初めての写真撮影をする。
次いでイアオパレー(溪谷)



イアオ バレー 溪谷

2月2日、鳥の観光。出発前にさわやかな、見るからに南国的なレストランに寄る。ここでは見たこともないようなジャンボオムレツがあった。一人前に四個もの卵を使い、幾種類の具をたっぷり入れる。私達は胃を満たすのもつらいようである。食後バスに乗り込んで潮吹き岩を見物。

を観光して昼食にする。そして待望であった砂糖きび列車に乗る。カナバリからラハイナまでの距離を十五分位で走る。ラハイナの町は一八四〇年から一八六五年まで太平洋中部の捕鯨基地で、当時は沢山の船が停泊して賑わった歴史を持つ港町であったようだ。列車では途中の景色に見とれ、青い海に鯨の姿を追い、砂糖きび畑の中を煙を吐きながら汽笛を鳴らし、その間に車掌はバイナツプルを売ったり、さらに歌まで唄ってくれるサービス振りである。

2月1日、カウアイへの移動日である空港に向う間、珍しく雨になったが、気がつくとき美しい虹が大きな弧を画いていた。この島は「庭園の島」と呼ばれるにふさわしい深い緑に包まれている。

2月3日、オアフは晴天で暑い。ワイキキビーチは大勢の人で一杯。先ずは真珠湾、アリゾナ記念館をはるかに望む所で記念撮影をする。バスはヌアヌ公

七十年史を読んで

母校の創立七十周年を記念して刊行された「卒業生が語る東京文化学園の七十年」は同窓生の方々に読んでいただいています。ここに感想を特集しました。

専門9 林 志づ (旧 大沢)

六月、名古屋での支部会の折「歴史を感じる」と若い方々の御挨拶、本当に七十年の歴史の重みを感じました。

立派に発刊された七十年史を拜見し、編集された方々への感謝の思いで一杯でございます。

まづ鮮明な昔の写真の数々、若い日の姿と、その背景にある諸々のことをなつかしみました。

第一部で建学の歴史を見ますと、はじめ森本厚吉先生の消費経済が中心であったのが、次第に社会の変遷にともない、家庭

園に出る。カメハメハ大王がハワイ統一のための最後の戦いをした所で眺めのよい三角島、アグネスラムの生家、イオラ二宮殿前を通つてカメハメハ大王の像を見る。その後は自由行動となつて、日本へのお土産を買ひに出かけた。

2月4日、出発までフリータ

科栄養士の勉学へ、医学技術専門へ、ビジネス方面へと変化していった事が判ります。そして幼・小・中・高・短大へと一貫教育が完成してゆきます。その中で、卒業生誰方も書いていらっ

しやる三井精神、文化という広い分野への思い「去年今年貫く樺の如きもの」という虚子の句がございいますが一本筋の通った思いが伝つてまいります。

第二期では、第一期高野様と第三期三澤様がお書きになつているのを心強く感じました。私も台北から上京、経専へ入学しましたので、台湾の廖近英様の

イム後それぞれの旅の思い出を心にきざんで機上の人となつた。この7日間、何時もながらマナーを守り、年齢、卒業校を超越して、助け合いながら、楽しい旅をすることが出来た。これからこの行事が続けられると思う。一人でも参加できるムードを大切にしてゆきたいと思う。

お氣持と御苦労を思いました。

元田先生の御逝去前のお文、

関口先生の御戦死、思いがけない事で御冥福をお祈りいたします。関口先生は竹針を切つて毎朝、ブルーダニューブルツのレコードをかけていらした事を思い出しました。

戦争中の御苦労又戦後の混乱期を学園の建てなおし等、森本武也先生のご活躍がしのばれます。

戦後同窓会支部設立にお骨折りいただいたお蔭様で、私も今も学校とのつながりが持てます事を感謝しております。

過日東京での総会へ出席して式後のアトラクションで卒業生の方々のご立派な芸にも感激いたしました。

どうか、学園の益々の発展と同窓生皆様のおしあわせをお祈りいたします。

専門20 廖 近英

昨日「卒業生が語る東京文化学園の七十年」のぶ厚い御本をいただきました。こんなにも遠い遠い海を何万里もへだてた外地の私に、早速送って下さって何んとお礼を申し上げたらよろしいでしょうか。本当に心から感謝でいっぱいです。どうも有難うございました。

母校を語る皆々様の想い出、感想はたいへんに懐かしく、何度も何度も読み返しました。理学科のクラスでは、何人かの方から年賀状やご自分のお家の様子等々のお手紙を頂いております。心優しい同期生のお友達を持つている私、本当に幸せであると感謝しております。

同じ時代に生まれ、育てられて来た私も、考え方が同一方向なんでしょう。そして、そこに私どもの友情が芽生え結ばれて、大変嬉しく思っております。主人と共に「長野オリンピック」の競技を、テレビで楽しく見ております。こちらは、この冬雪らしい雪もなく、春雨が降ったりしております。長野のオリンピック競技場は大雪、本当に最適な時季にめぐり合いました。冬の各競技場に意気込む若い人達の姿、日本の姿、日本の景色

等々懐かしくなりませぬ。主人とテレビを見ながら語り合っております。(アメリカ在住) 一九九八年二月二十六日

高女19 宮関 千鶴子

一気に読ませて頂きました。編集された方は大変でしたでしょう。この様な本はなかなか読めないものです。楽しく過ごして来た学校生活を思うとき、あのきびしい時代を森本厚吉先生の慈愛に守られて学生生活を卒業まで行けたことを感謝しております。

私達を境に前の方達は楽しい生活を、あとの方達は戦争に巻き込まれての学校生活。又戦後の大変な中、御苦労なさって学校のために力をつくされた方々。読んで行く中に色々なことがわかり、あまりにも学校に対する自分の無知にあきれるばかりです。しかしあの頃から比べたら、とても考えられない学校の発展にびびります。読みやすいので何度も何度もみております。

高女21 寺岡 博子

拝読して、改めて母校の偉大さを痛感致して居ります。五千円札の新渡戸稲造校長をはじめ、

諸先生の素晴らしい教育のもとに、激動の戦時中を勉学に励んだ、私達を誇らしく思います。

昭和二十年五月の大空襲を前に仕方なく父の郷里広島県へ帰郷し、以後尾道市で現在まで過して居りますが、同期生の方々とは常に旧交を温めて居り、上京の節は大変温かく迎えられ感謝して居ります。これもひとえに母校の教育方針の賜物と思つて居ります。私も学徒動員で錦糸町の精工舎へ、戦火の中徒歩で御茶ノ水まで帰宅した事等、卒業生が語る七十年の歩みの中で拝読し、想い出と申しましようか、当時は参ります。

素晴らしい企画編集をなさった皆様に深く感謝申し上げます。その後の母校の発展は素晴らしく、遠く離れて居りましても、母校の事は一日たりとも忘れる事はありません。三歳年上の姉と二人で通学した中野坂上までの徒歩、そして芸術の会への出演等、想い出はつきません。本当に素晴らしい本を発刊なさいました事に重ねて御礼申し上げます。一生大事に致します。我が家のお宝として。

短大30 佐藤 栄子 (旧 稲葉)

年史は大方が本棚の飾りという観念を覆して、とても身近に感じ、年史の役割は充分に果たしながら読み物としての力と面白さを備えた一冊でした。特に第二部では、私が生まれる前、既に素晴らしい教えを受けられ、今なお、それを糧としていらっしゃる方の文もあって、その方の卒業年度と年表を照らし合わせ、次にもう一度第一部に戻って学園の歩みを確かめるといふ、それは忙しく嬉しいことでした。そして知らぬ間に多くのページをめくりました。

私は二年間在学しただけでしたが、この本で創立当時の七十年を御一緒出来た様な気持ちの高ぶりを覚え、改めて建学の精神に触れて、エネルギーをもいただきました。まだお読みでない方に、是非お見せしたいものと思えます。この様な手数をふんだ、すばらしい御本を編まれた委員の方々に、心から御礼申し上げます。

短大62 佐野 初恵 (旧 富田)

短大・調理学研究室の助手として学んだあの頃、私の人生において最も充実し、毎日の色々な発見を純粋な心で受けとめる

ことが出来た、一番好きな頃だったと思う。たくさん喜びたくさん笑った。七十年の歴史の中で僅か四年ではあるが、思い出を共有する一人であることを誇りに思わずにはいられない。

短大に入った四月、「富田さん」と先生に声をかけて頂いた。名前を覚えて呼んで下さるような学校で学べることに深く感動し、それからの私を大きく変えていったと言つても過言ではない。七十年史により、一人ひとりを尊重し、個性をよく知るために先生方も共に遊び共に学ぶことは、幼稚園からすでに培つて来られて、学園全てがこの恵まれた教育となっていたことを再認識できた。

現在私は、子育ての真つ最中であるが、教育は、おどかしたり叱つたりして無理に押しこむのではなく、本校のように、持つて生まれたものを大切に各々の才能を引きのばして下さる場に子供の通う学校もあることを願わずにはいられない。

この七十年史に寄せられた同窓生、又私を含む他の同窓生とで今後の学園の発展のため、素晴らしい教育方針が守られていくために何か出来たら、と心より思った。

短大45 高橋 芳子
(旧 金沢)

私は中学校から短大迄、学園にお世話になり、学園の隅々迄知っている様に思っておりますが、「七十年史」を拝見し、改めて歴史の深さを感じずにはおられませんでした。

時代の移り変わりと共にあつたご苦勞も、学園と共に歩んでこられた先輩方のお力は素晴らしい経験となり、また、精神の自由を失わない青春を生きてこられた事が文の中から読み取れます。

私も卒業して三十年近く経ち、困難におつかった時は、「真理は汝に自由を与う」という言葉を心にもち、最近「3日精神」の持つ意味を実感する事があり、改めて東京文化学園に学んだ事を有難く感じております。

一口に七十年と申しますが、日本の歴史の中でも大きな変動期であった事を思えば、この時期に諸先輩のお力により受け継がれて来た歴史を残す事の意味は大きいと思います。

また、森本静子先生、武也先生、そして、多くの先生方との思い出がこの本と共にある事に感謝致しております。

医技35 井上章子

分厚い本を読み終つて感じたことは、本当に良い先生方から教えを受けることが出来たのだということでした。まず、私たちの東京文化学園で検査技師教育を始めることにご尽力された理事長の橋本寛敏先生と、副校長の近藤宏二先生。橋本先生には「医学概論」で、検査技師の心構えを教えてくださいました。が、その時のお姿や少ししかすれたお声を思い出しました。近藤先生については、学生の頃、片肺、片腎になられたことから、よく「わたしは実験中」とおっしゃられていらしたことを思い出しました。

「短大の先生方の寄稿」の中に、血液学の菅野先生と、生物学の野口先生が、当時のことをお書きになっておられます。お二人の先生には、おかしな思い出があります。菅野先生は、授業中臍帯血にふれ、「胎児はどう栄養を取るか」と質問されました。答えられずにいた私達に、「これは大変だ。こんなことも知らないなんて」と深刻なお顔をされました。幸い聴講生の修道女の方が、代つて答えられたので、一同ほっとしました。野口先生については、「マリアの

処女受胎は起こりえると僕は思っています。」とおっしゃられたこと。

一学年目の授業は、高校と違い珍しく、面白く、難しかったのですが、英語、ドイツ語、心理学、音楽、体育もあり、楽しくもありました。森本静子学長の講座も、一年先輩は受けていたことを知りました。私達は受けられず、改めて残念。しかし、幸いにも藤子先生には、英語でモームの「嵐」の抜粋を教わることが出来ました。昭和三十三年の事、先生の美しい発音に聞きほれたことを覚えています。

小林先生にも、薬を量る時の紙箱の作り方、「電気器具は、右手で操作しなさい。左側には、心臓があります。」と教わりました。

細菌学のこわかった林先生、組織学の福島先生の細胞を描く手、心電図の鴨谷先生、東一では、大橋先生、小酒井先生、石井先生、上野先生、相賀さん、萩島さん、山名さん、安藤さん、学校のお蔭で、忘れかけていた、本のお蔭で、思い出して、いろいろのことを思い出しました。編集なさいました方々に感謝申し上げます。

医技59 塩田 治子

卒業して十数年が経ち、母校を思い出す事も少なくなつていました。そんな時「卒業生が語る東京文化学園の七十年」を読む機会に恵まれました。

そこからは先輩方、後輩達の生の声が、改めて知る学校の歴史と重なりながら聞こえてきた。今まで知らなかった先輩方の授業の様子や母校への思い、そしてある意味でのバイオニアとしての御苦勞等に、驚いたり、感心したりし、さらに後輩の声を頼もしく感じながら、楽しく読ませて頂いた。

私自身も、学生時代を振り返り、長岡先生をはじめ、お世話になつた先生方、友人達の顔を思い浮かべ感謝すると共に、なつかしく思い出していた。

現在、世の中は様々に変化し医療現場も進歩し続けている。そんな中で、日常に流され、目の先のことばかりに気をとられて毎日を過ごしているが、この本のおかげで一時、楽しかった学生時代に戻り、母校への思いを新たにしたい。母校がより発展するよう、心から願っている。

高26 伊藤 哲子
(旧 河野)

「東京文化の七十年」を同窓生として、願ひる事業に携わる事ができましたことの光榮、上梓いたしました喜び、同慶といふことでございます。経済的に、厳しい条件下にあつての資料蒐集など、たいへんな作業であつたと思うとき、まず、いとおしさが先にあります。

ひとつの歴史のプロセスをつづるので、万遍なく、その時代時代を網羅せねばならぬところ、限られた部分で締めくくられているところがあります。今後十年単位でまとめ、小冊子をつくっていくことが必要と存じます。

東京文化出身の編集関係の仕事をもつていらつしやる方のお力を頂くこといかが……。

何よりも、東京文化出身であることに誇りをもち、「真理は汝に自由を与う」と「心の清き者は幸なり」の新渡戸稲造先生のスピリッツを胸に生きる事を同窓生として根本にもち、母校を原点にせねばと改めて感じました。

高33 菊地 昌子
(旧 長尾)

幼・小・中・高・経専・短大に在学された方々の思い出、体験を読ませていただき、当時の中高六年間の数々のふれあい、経験を、卒業後四十年もたつておりますのに、鮮明によみがえってまいりました。

私達三十三期卒業の仲間には平凡な仲間ですが、折にあれて集まり、年を忘れて話に花が咲いてます。私は中学三年よりクラブ活動として華道部に在籍し、枝松先生から、花を活ける楽しさ、又生花を通じ、心の豊かさを教えていただきました。現在は学校の授業の中に茶道と共にとり入れられているとのこと、この二つの世界から学園の目標の、「清潔、端正、品位」を会得していただければと思っております。私も現在自宅にて横尾先生からおけい古をしていただいております。東京文化との深いつながりを感謝しております。

最後に発刊に際し、石川悦子

委員長を始め皆様方のご尽力に深く感謝申し上げます。

高H10 小澤友佳子

私は、中学から六年間東京文化で過ごしてきました。創立七十年という長い年月が経っているにもかかわらず、そして、時代が変わっているといわれているにもかかわらず、卒業生の先輩方とは東京文化に対する気持ちは同じです。同じ青春時代を東京文化で過ごしたからだと思います。

もし私が、結婚をし、子どもが生まれたら、楽しかった中高生時代を自慢したいと思っています。そして、何よりも良かったことは、先輩方も書かれましたが、私も先生や友達に恵まれたことです。私にとつての東京文化は、居心地の良い場所だったと思います。

卒業してから東京文化は最高の学校だったと思つたのは遅すぎました。在学中に気がつけば良かったと思ひました。六年間本当にありがとうございましたと、東京文化に心から感謝したいです。

小32 新倉 徹也
人に歴史あり、組織に人あり。

そんな思いが改めて感じさせられた七十年史でした。私にとつて、幼稚園、小学校の八年間は、ただ人生の通過点でしかないという認識でした。今、人生の半ばを越え、齢を重ねること五十余年、お世話になった学園の姿が少し判つたような気持ちになりました。又、それと同時に、記憶に残る様々な忘れ得ぬ人々の真の姿が判り、妙に得心させられました。

幼稚園時代、のつぽのおじさんが山下俊郎先生で、脱走事件でこつぴどく怒られ、怖い先生だから「童馬先生」と思つていましたが、「柳葉先生」が本当であることが判りました。

小学校では、「割烹着の似合う豊納まつ先生」の記事が、大変懐かしくも、鮮明に想い出されました。というのは、最初の授業で、黒板に自己紹介として「豊納まつ」と書かれたとき、私の母親と同名なので親しみを感しました。ミシンで雑巾を作り、ボタンを付け、ローケツ染めと、今でも技術としてしっかりと憶えています。温か味のある先生で、めつたに学校内でも遠くこともなかつたのに、忘れ得ぬ先生でした。本に載つた写真は、大分若かつた時のものと思

われますが、私にとつて大変貴重な宝物になりました。「袖触れ合うも他生の縁」の感が否めません。縁あつて、今、小学校同窓会の幹事を勤めさせて戴いていますが、今年から学園の同窓会にも顔を出すようになりしました。そこにもラーメンの中川悦先生や、中学高校の友人の岩野君のお姉様(現 短大 鷲見教授)がいらつしやつたり理事会も結構楽しみにしています。

小学校の同窓会を何度か開催してみている事は、同窓会というのは、小学校の場合、その参加はけつして強制されるべきではなく、人生色々、懐かしいと想う人も、無関心の人も、来たくない人もいるということです。

同窓会は旗で、同窓生は風のようなものです。「旗が鳴るのか、風が鳴るのか」、「旗が鳴るにあらす、風が鳴るにあらす」、両方があつて鳴るものです。旗はいつもそこにあり、風が巡り来るのを待つだけなのです。続ける事が歴史を創り、伝統を守ることと思つています。最後に、この立派な本が出来、より多くの卒業生達に読まれ、風となり、学園を訪れることを望みます。

七十年史出版御礼

「卒業生が語る東京文化学園の七十年」の出版にあつては、卒業生の熱意と母校愛、そして奉仕の心によつて、創立七十周年記念日に合せて出版できました。大勢の方がたにお買い上げ頂きました。厚く御礼申し上げます。

まだお求め頂いていない方には在庫がございますので是非、お読み頂ければ、学校の現況、同窓生の動向もお解りになれるのではと思います。

申し込み方法

〒一六四一八六三八(住所不変) 東京文化学園同窓会宛

価格 三、五〇〇円(送料込み) 七十年史編集委員会

委員長 石川 悦子

専門部会

本年は経専の同窓会が創設されて七〇年になります。そして二十世紀最後の部会です。

ゆつくりのんびりお湯につかり秋の一夜を楽しく語り合ひましょう。ということで、左記のように一泊旅行で開催いたします。

平成10年10月4日(日)・5日(月) 奥那須・大正村 幸の湯温泉 費用 二万三千元 募集人員 四十名

七十周年史について、学長、校長の 各先生からも感想をいただきました。

短大学長 村松一郎

昨年わが東京文化学園が創立七十周年を迎えるに当たって、会長の湊先生から五十年史の後をうけて、補完的な記念誌を発行すると伺っていました。しかし出来上がって届けられた冊子は補充的どころか、なかなか中身の充実したものです。私のように学園の歴史に暗いにもかかわらず、立场上、話の中でその歴史にふれなければならぬことがある者にとっては、五十年史は大変に役立つて来ましたが、今回その後の二十年分が補足されて大変ありがたく存じています。

この記念誌の第二部にある卒業生の座談会や寄稿文はまた、大変興味あるものです。卒業生のみなさんがそれぞれ在学時代の恩師の想い出を忌憚なく語っておられるのを読むと、大変参考になります。学者としても高名であられた先生方も多くおられました。それらの先生方の学生に対する人間味あふれる接

触、交流によって、今日の学園の雰囲気がかもしだされたのだと思われまます。

翻って今後何十年か経って、今われわれの学舎で学んでいる学生さん達が、学園生活をどのように思い出し、懐かしみ、またいかに評価するだろうかと思うと、教員とは大変な仕事だなどと考えさせられます。

ところで、この御本の記録の部分は資料集めなど手間のかかる仕事で、担当された方々は大変だつただろうと思います。第二部では、それこそ七十年前の学園を経験された方から、卒業したばかりの方々まで実に多くの方からの文が寄せられており、編集担当の皆さんは原稿集めに大変であつたろうと思います。それらのご努力が充分酬われてる素晴らしい出来栄で、あらためて敬意を表する次第です。

医技校長 本間伊佐子

創立七十周年、おめでとうございませす。東京文化学園の経専

時代も見聞きしておりましたが、本誌を拝見して昭和初期の女子教育のあり方をあらためて知り得て、創立時代の先生方の御苦労、卒業生の方々の御努力に感じ入りました。

私は昭和三十七年以来医学技術専門学校非常勤講師をつづけ、又最近では副校長、校長として、本校医技の発展経過をつぶさにみてまいりました。それぞれの時代に応じた展開をとげられ、すばらしい成績をつづけられて来られたのには、学園の伝統の有難さ、卒業生の方々の御活躍によるものと、うれしく存じます。

「昔の良き時代は……」と懐古するより、学園創立の精神をもつて、さらに新時代にむけ躍進させて頂きたく存じます。皆様、同窓会の方々のさらなる御努力、御支援を期待してやみません。

中高校長 小林 弘志

今期はTV・新聞社等のマスコミから学園に関する取材の依頼が続きました(東京文化タイムス331号に紹介)。その時、とても役立つのが同窓の会七十周年史でした。

「知ってるつもり」(8/9放送)番組制作の方から、プロボウラーの須田開代子さんに関する取材があり、中学で同級の内田昭子氏(高34)の記載記事を紹介させていただきます。

局側の話によると、強い女性には人を感動させる力があるとのこと、野口英世母堂に続くシリーズとして須田氏の登場になったとのことでした。

また、昨年度は東京私立中高協会支部長校としてご支援をいただきました。新年、都議と各校のご父母、教職員懇親会には歌手のイルカさん(高44)に援助出演をいただきました。

イルカさんのプロフィールにも、東京文化は私の原点、記事を年史から引用。器楽クラブの挿入写真はご自身お気に入りのよう、青春の一枚として朝日家庭便利帳に、またNHK・TVでも大映しの紹介がありました。

これらは、一例のご紹介ですが、あの頃あの時の青春の声を掲載した重みのある、えんじ色のブックは東京文化の貴重なお宝です。青春の魂が刻まれている学園生活の想い出を語る続編が刊行されることに期待を寄せております。

小学校長 山田庸夫
幼稚園長

学園同窓会の方々の手によって、総ページ数四五〇ページに及ぶ素晴らしい学園七十周年の歴史書が刊行されましたことに對し、感謝と敬意の思いを深くいたしております。

三年前、ご縁があつて東京文化小学校に奉職させていただくことになることが決まった時、従兄の一人が私に申しました。

「君は今度ケイセンに行くことになったそうだね」と。

一瞬私は戸惑いを覚えました。すぐ気付き、その通りであると答えたと、従兄は妻もその姉妹たちも、「経専」を卒業したのだと教えてくれ、私を励ましてくれました。

また、私の家の近所の方からも同窓生であることを告げられました。新渡戸先生、森本先生から直接薫陶を受けた方々が、今、広く社会の各方面で活躍しておられ、自分の身近にも複数いることを知り、学園の教育のすつしりとした重みを改めて感じていきます。

この学園史の書を通し、自分が今、後を継ぐ一員であることの責任を肝に銘じたいと思えます。

” VERITAS VOS LIBERABIT ”
「真理は汝等に自由を与う」(新約聖書ヨハネ8章)

沿革

- 昭和 2年 女子文化高等学院を東京市本郷区元町(現文京区本郷二丁目)に創立する。役員は理事長に法学博士森本厚吉、理事・法学博士吉野作造、理事・医学博士橋本寛敏、学院長には森本静子が就任する。
- 昭和 3年 専門学校令により女子経済専門学校と改称する。初代校長に新渡戸稲造、理事長兼副校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和 6年 現在地所在の成美高等女子学校を引継ぎ、附属高等女学校と改称し、新渡戸校長が兼任する。
- 昭和 8年 新渡戸稲造校長逝去により、森本厚吉が校長に就任する。
- 昭和 9年 東京都中野区の現在地に移転する。
- 昭和 19年 東京女子経済専門学校と改称し、経済科・保健科・育児科を設置する。
- 昭和 21年 英文科を設置する。附属幼稚園を開設する。
- 昭和 22年 学制改革により、附属高女は東京経専中学校および高等学校に分かれ、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和 23年 東京経専小学校を開設し、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和 25年 森本厚吉校長が逝去したため、森本静子が校長・園長に就任し、橋本寛敏が理事長に就任する。
東京文化短期大学(家政科)を設置し、学長に森本静子が就任する。東京経専高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園を東京文化高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園と改称する。児童研究所を新たに設置する。
- 昭和 26年 学校法人東京文化学園を設立、理事長に橋本寛敏が就任する。従来の専門学校は発展的に解消する。
- 昭和 27年 短期大学内に医学技術研究室を開設する。
- 昭和 30年 東京文化医学技術学校を開設する。医学技術研究室は発展的に解消する。
- 昭和 37年 森本厚吉博士の銅像を学園内に設置する。
- 昭和 39年 森本武也が学長に就任し、森本静子は学園長に就任する。浅間高原寮を長野県御代田町に開設する。
- 昭和 46年 任期満了のため橋本寛敏理事長が辞任し、大浜英子理事が理事長に就任する。
- 昭和 47年 医学技術学校長に医学博士守屋博が就任する。
- 昭和 49年 幼稚園長・小学校長に鈴木光雄が、中学校長・高等学校長に土居孝輔が就任。理事長に大久保安威理事が就任する。
- 昭和 51年 創立50周年記念事業の一環として杉並区和田一丁目に約3,300㎡の校地を購入する。
東京文化医学技術専門学校臨床検査学科と改称。
- 昭和 52年 創立50周年記念式典を挙げる。東京文化学園五十年史刊行。
- 昭和 53年 幼稚園長・小学校長鈴木光雄の逝去により、幼稚園長に森本光生が就任し、小学校長に永山義夫が就任する。
- 昭和 54年 幼稚園・小学校新校舎が、杉並区和田1丁目に竣工する。
- 昭和 56年 医学技術専門学校長に医学博士福岡良男が就任。旧二号館、四号館、七号館を解体し、跡地に体育館を建設。
- 昭和 57年 小学校長に橋本正礼が就任する。
- 昭和 59年 森本武也が名誉学園長に就任し、短期大学長に理学博士佃正晃が就任する。幼稚園長に橋本正礼が兼務する。
- 昭和 61年 桃園寮を閉鎖し、新校舎の建築を始める。短大八号館を解体。同窓会館を新築する。
- 昭和 62年 桃園校舎を新築し、専門学校東京文化学園ビジネスアカデミーを開設し、校長に福岡良男が兼務する。医学技術専門学校を桃園校舎に移転する。短大二号館を増築する。
- 昭和 63年 中学校長・高等学校長に黒澤教子が就任する。
- 平成 4年 医学技術専門学校長に医学博士本間伊佐子、ビジネスアカデミー校長に大久保忠昭が就任する。
- 平成 6年 中学高等学校長に小林弘志が就任する。
- 平成 7年 短期大学長に理学博士村松一郎が就任する。小学校長に山田庸夫が、幼稚園長に丸 翠が就任する。
- 平成 8年 新渡戸稲造博士の銅像を学園に設置する。
- 平成 10年 幼稚園長に山田庸夫が兼務する。



創立者
森本厚吉先生



初代校長
新渡戸稲造先生

あなたの良き後輩としてふさわしい

学生・生徒・児童・園児の

ご紹介を!

卒業生の皆さんへ

理事長 大久保安威

昭和二年に女子文化高等学院として創立した東京文化学園の同窓会は、創立した東京文化学園の同窓会は、創立した東京文化学園の同窓会数は二万人余となりました。創立者森本厚吉先生、初代校長新渡戸稲造先生の建学の3日精神を実践し、各方面で社会に貢献されている卒業生の活躍は、後進の者の誇りと、大きな励ましとなっています。

また、卒業生のお子さんやお孫さん方が母校に入学され、伝統ある校風と、新時代に即した教育を受ける姿を拝見することは、学園にとって力強いことで、皆様の信頼にこたえるよう教職員一同努力しています。

同窓会の皆様には、学園祭、総会、クラス会など折にふれて学園に来ていただき、明るい校舎と充実した教育環境に、高い評価をいただいています。

昨年(平成7年)は創立七十周年を迎え、皆様のご協力のもとに学園は着々と発展を続けております。

十一月二日、三日に開催される学園祭では昨年に引き続き「学園の歴史展」を開く予定です。多数の皆様のご来園をお待ちしております。

東京文化学園
入学案内無料頒布
(小学校は有料)

入学案内をご希望の方には、無料で頒布しております。各学校の教務にご請求ください。

短期大学の近況

入試状況

短期大学では長い間、一学年につき食物栄養コース(Dコース)二クラス、教養・教職コース(Cコース)二クラスの編成でしたが、女子学生の資格生志向によってDコースの人数が高くなり、一九九六年度入学生から、Dコース三クラス、Cコース(現在は人間環境コース即ちEコースと名称変更)一クラスに変わってきました。

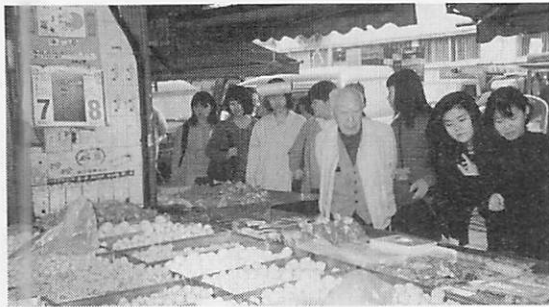
入試状況については、全国的に短期大学への入学者数は減少しております。本学では、一九九七年度入試では他の多くの短期大学とは逆に、受験者数が前年度に比べて著しく増加しました。ところが一九九八年度入試では、他短期大学と同様に前年度に比較して減少してしまいました。

もちろん減少したのは応募者の数であって、入学生の数は目標通り確保し、大勢の素質のある学生が入学してきました。しかしながら本校の将来のためには、ここで抜本的な対策を講じる必要があると考えております。

東京文化高校からの進学者は、一九九三年度には百名を超えておりましたが、以後漸次減少し、一九九八年度入学生では、僅か二十三名となつてしまいました。本学園の良き伝統を継承するためにも、もう少し進学者が増えてほしいというのが、率直な感想です。

第一カフェテリア厨房の大改修

六号館地下食堂、通称第一カフェテリア厨房は、Dコースの校内実習施設として、同窓生の皆様にも思い出深い場所だと思います。



台北市卸売市場見学

この施設は森本武也先生のご指導で作られ、四十年以上の歴史を持つておりますが、さすがに機器・設備が老朽化してまいりました。昨年全国的に発生して大きな社会問題となったO157中毒事件に関して、厚生省生活衛生局からかなり厳しい食中毒防止の通達が出されたことも踏まえ、学園理事会のご理解もあつて、本年三月に大幅な改修をいたしました。

- ① 汚染作業区と非汚染作業区の明確な区分
- ② 調理器具や容器の使用後の殺菌保管
- ③ シンクの用途別設置
- ④ 調理台の効率的配置

工事は、床や壁の改修、給排水設備の改修、倉庫の新設、設備・機器類の更新など抜本的なものであつて、工事終了後は全く見違える施設となりました。自他共に誇れる最新式の給食管理実習施設と言えます。

五月から早速二年生が実習を始めましたが、明るく綺麗で使い易いと評判は上々です。教育効果は更に高まり、これからもこの施設から大勢の立派な栄養士が巣立つていくことでしょう。

台湾食文化研修旅行

本学では毎年夏休み期間中に英国研修を実施しておりますが、それに加えて昨年度から中国食文化

についての研修旅行を始めました。三月に三泊四日で台湾の首都台北を訪ね、中国料理、食材、中国茶を学び、特に中国料理では本場の先生から麻婆豆腐、魚の丸揚げ、海老団子、焼き餃子、葱餅などのデモンストレーションや実習を受けました。

さらに、卸売市場や故宮博物館の見学もあつて、参加した学生十四名は、中国の食文化を十分勉強することができました。この研修は調理学系の教員が中心となって世話をし、今後も継続して実施する予定です。今回は第一回目だということもあつて大久保理事長にもご参加いただき、大変有意義な四日間でした。

管理栄養士国家試験

管理栄養士の国家試験には、本校の卒業生は毎年十名強が合格しております。試験は年々難しくなつており、本年度は全国的な合格率が前年度よりも低下したと聞いております。また新しい知見や知識が出題される傾向も強くなってきました。同窓生の皆様の中で受験資格をお持ちの方は、できるだけ早い機会に受験されるようお願いいたします。

また今後は、合格された方はお手数でも本短期大学までご連絡いただけます。

(窓口は食物栄養コース主任) よろしく願いたします。

学生募集要項 家政科		出願方法	願書受付期間	試験日	合格発表	試験科目および必要書類
家政科女子 150名 (推薦入学90名、試験入学60名) ■食物栄養コース(栄養士免許取得) ■人間環境コース(余暇生活相談員資格) 生活健康サブコース 生活文化サブコース 教職サブコース (中学校2種家庭科教員免許取得) お問合せ 短期大学教務部 03-3381-0197		推薦入学	11月2日～ 11月9日 4時必着	11月12日	11月13日 郵送	●面接 入学志願書・調査書・推薦書
		試験入学	1期 1月21日～ 1月28日 4時必着	2月2日	2月3日 本学掲示	●国語Ⅰ・Ⅱ(古文・漢文を除く)、 生物ⅠB、化学ⅠB、英語Ⅰ・Ⅱ の4科目より1科目選択
		2期	2月16日～ 2月23日 4時必着	2月26日	2月27日 本学掲示	●面接 入学志願書・調査書

医学技術専門学校

の近況

教務課のシステム化について

現在学生数二〇五名に対し専任教員一〇名(校長含む)、事務員二名、臨時職員一名、非常勤講師約七〇名で教育、運営をしている。

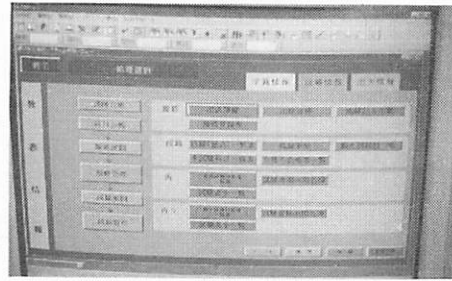
分担している内容は、通常授業、学校行事(入試、研修旅行、見学、学園祭等)、成績処理(期末試験等含む)、病院実習および就職関係である。しかし非常に煩雑で、今までのノウハウの蓄積と職員の高密度な連携プレーなしには過去最高の入学試験の応募者三二〇名、国家試験一〇〇%合格、三月末までの就職内定率一〇〇%という結果にはならなかったと思われる。

今迄そのノウハウの蓄積を授業と教務事務に生かすには時間があまりにも足りなく、教員においては学生に向き合う本来の仕事が出れない状態であった。

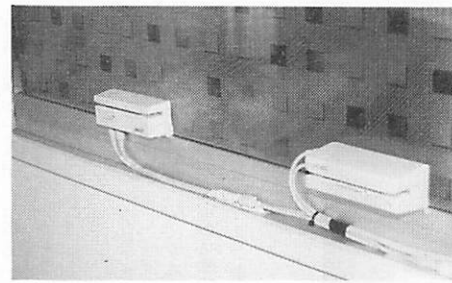
桃園校舎に移転した昭和六二年までは、学校の書類に関してすべて手書きで、時間がかかり、特に成績に関しては同じ手書きでも集計表の作成、再試受験者一覧など何回もの確認を必要とした。試験もマークシート方式試験が多く

あり、特に国家試験の模擬試験や卒業試験には二〇〇問という量で採点も簡単にはいかなかった。当時試験期間中は夜の九時頃の業務終了が当たり前であった。

教職員の負担を少しでも減らすと、平成八年にウインドウズ版のLANシステムの導入を本格的に開始した。内容は、マークシートから成績情報への直接入力による入力ミスの減少、二、マークシートの試験により一層のきめ細かい解析、三、一日体験入学から入学試験(マークシートによる成績処理)入学試験合格者の処理までの



成績情報の画面



玄関脇に設置してある学生出欠IDカード読み取り装置

システム化、四、学費簿のコンピュータ化による学生管理、五、授業管理(時間割作成など)学生の出欠管理(学生IDカード読み取りによる出欠集計)のコンピュータ化、六、図書室での蔵書管理および図書貸出返却のバーコード処理(学生図書バーコード配布)、七、

三年次の就職活動状況と求人先情報、八、教職員の一人に対しパソコン一台による連絡、報告の電子メール化と桃園校舎内の文書の共有化、九、ホームページの開設による広報活動の大きく九つに分けられる。

現在システム導入後、さらに使いやすくするため最終調整段階に入っており、教職員全員でパソコンを操作し、教職員個人の質を上げながら厳しい環境の中を突き進んでいるのが現状である。

卒業生の就職状況

今年も社会情勢が厳しいなか臨床検査技師として全員が新しい一歩をスタートしました。これは先輩の努力と共に学生が真剣に就職活動に取り組み、教務とよく連絡し、情報収集にあたった結果です。諸先輩の皆様、来年も是非後輩を宜しくお願い致します。

- 東京医科歯科大学病院(2)、千葉大学病院(3)、防衛医科大学病院(2)、昭和大学病院(4)、昭和大学藤が丘病院(1)、東京女子医科大学病院(3)、慶應大学病院(3)、慈恵医科大学病院(1)、聖マリアンナ医科大学病院(1)、日本医科大学病院(1)、山梨医科大学病院(1)、東邦大学大森病院(1)、虎の門病院(3)、旭中央病院(1)、亀田総合病院(1)、済生会前橋病院・駒沢病院・板橋総合病院グループ(2)、千葉西病院(1)、厚生中央病院(1)、横浜鶴岡病院(1)、上野医院(1)、化学療法研究所付属病院(1)、王子生協病院(1)、玉井病院(1)、福田ウイメンズクリニック(1)、保健科学研究所(3)、大塚東京アツセイ(1)、エスアルエル(1)、住友金属パイオサイエンス(1)、シマ研究所(2)、PL東京健康管理センター(3)、児桜検査センター(1)、和光会健診センター(1)、帝人バイオラボトリー(4)、東京顕微鏡院検査センター(1)、日本赤十字社中央血液センター(1)、全日本労働福祉協会長野支部(1)
- ()内は人数です。

学生募集要項		選考方法	推薦入学	試験入学
募集人員	64人 (女子のみ)	願書受付	平成10年10月1日(木)~10月8日(木)	平成10年11月16日(月)~12月8日(火)
修業年限	3年	選考日	10月12日(月)	12月10日(木)
入学資格	高校卒業	合格発表	10月13日(火)	12月11日(金)
出願書類	入学願書、出身校の調査書、健康診断書、推薦入学の場合は出身校の推薦書	試験科目	[数I、化IB、生IB、物IBから2科目選択]・面接(推薦・一般共通)	
お問合せ	医技教務 03-3381-0121			

*二期募集があります。詳細は「学校案内」をご覧ください。

中学高等学校

教育目標

「国際的な感性を身につける人格教育」すなわち新渡戸稲造先生の「人間は生まれ育つた環境が違うのだから、それぞれの考え方やその見方が違うのは当然である。その違いを認め合い、受け入れられる寛い心を持つことが大切。これが国際的な感性である。」の教えを受け継いで、日々の教育実践が行われています。この感性を身につけるためには新渡戸稲造先生のモットー「太平洋の架け橋になれ」と創立者森本厚吉先生のモットー「3日精神を身につける」ことこそ重要であり、生徒達はそのための方努力を積み上げています。

教育実践

○ひとりひとりの夢の実現を
 中学・高校の6年間は、それまで漠然としていた夢が少しずつカタチになっていく大切な時期で、自我の確立と共に個性的なものとなり、それぞれの将来に続いていきます。そうしたひとりひとりが持つ異なる関心分野や希望進路に

合わせて、効果的な学習ができるように、生徒が自主的に選ぶことのできる選択制度を生かしたカリキュラムを編成しています。これらの科目の履修を通して、学習に対する興味を高め、ひとりひとりの個性を伸ばし進路希望に見合った教育に取り組んでいます。

○6カ年の完全一貫教育

中等教育の6年を3期に分け、より充実した一貫教育をめざし、高1・高3を4年生・6年生と呼んでいます。中学生は全員が東京文化高校に進学出来ます。ですから受験勉強のための偏った学習にならず、ひとりひとりの個性を伸ばすことに重点をおいた教育が出来ます。今年度、中学1年生より数学、中学2年生より英語の習熟度別授業を導入し、到達度に合った授業を実践することにより、生徒の到達度を上昇させます。

基礎力を身につけた中学生が高校2年生より始まる進路に対応したカリキュラムである類型制の選択に臨みます。I類型は総合的な基礎学力を養う必修と自由選択の科目、II類型は大学受験のための文系・理系の科目を重点に設定し

ています。行き届いた指導ができるよう、選択科目のークラスの人数は少なくしています。

○情操教育の充実

国際的な感性を大切にするためには個々の精神の安定が必要です。日本文化を学ぶということから中学1年生は茶道を、中学2年生には華道を全員学習します。



茶 道

高校生には礼法やマナーの指導として外部より講師を招き、社会の中で規律を学びます。登山家の田部井淳子氏やコミュニケーショ

ン評論家の丸山浩路氏、性教育として、人間と性教育研究所所長の山本直英氏、日本家族計画クリニックス所長の北村邦夫氏など招聘して生徒の意識向上に取り組んでいます。また心豊かな人間になるために行事やクラブ活動も大切な役割を果たしています。

高校では2年前より平和を学ぶテーマのもとに沖縄へ修学旅行に

行き、多くの民間人が命を落したガマ(壕)に入り、当時のままの世界に触れ、生きる喜びを学習します。クラブ活動では、対外的な活躍も顕著になると同時にボランティア活動の手話クラブもでき、心の成長を目指しています。

○自分のために学ぶ週五日制

ますます多様化する21世紀をふまえ、受験のテクニックや詰め込み式の学習ではなく、生徒がそれぞれの関心分野や希望進路に合わせて自ら求めて学ぶ自発的な学習態度の指導に努め、その一環として8年前から五日制を実施しています。1年から4年までは余暇の使い方、学習の習慣化に重点をおき、5・6年では自分の進路に対応した学習等、各自でいろいろな取り組み方をしています。それが「五日通学・六日学習」のライフスタイルです。

○英語力の向上

国際性を身につけるひとつの条件として英語が話せ理解できることがあげられます。中学生は週6時間授業があり、その内1・2時間はネイティブスピーカーによる英会話が行われています。高校になると1年生は全員週6時間の授業を受けます。その内2時間はオリジナルコミュニケーションBです。英語Iは習熟度別授業と共にクラスを増やして少人数で実施します。

高校2年生以降は生徒の希望を重視し、週3時間から10時間受けられるようにしています。選択科目のオリジナルコミュニケーションA・Cは、もちろんネイティブスピーカーが教えます。15人程度をクラスにして今年度は三クラス同時に実施しています。さらに身近な言葉になるように校内の施設名は英語で表示しています。

英検は中学3年修了までに3級を、高校卒業までには2級を取得できるように、MM教育のコンピューターには英検ソフトをすべて導入し、生徒は自分のID番号を登録し、放課後いつでも自分の到達度に合わせた学習できるようにしています。平成10年の1学期には2級と準2級に34名の生徒が合格しました。

またEnglish Communication Roomを設置し、外国の授業環境の中で英語だけの使用を心掛けます。もちろんインターネットやEメールで外国とのアクセスもリアルタイムで学習できます。



MM 教室

東京文化小学校

「ほらできたよ」展のこと

小学校長 山田庸夫

毎年二月上旬に、東京の私立学校は児童作品展を銀座松屋デパートを会場にして催します。

加盟50校のうち半数以上の学校が作品を出品します。「ほらできたよ」展として広く知られるようになった作品展で、各校それぞれ意匠をこらした数々の作品を出品してきます。思いがけない独創的な作品が、展覧会を見に行く人の心に感動を与えてくれます。

私も前任校在職の頃から毎年欠かさずこの展覧会に出かけて、自校の出品した作品が、果たして他校に比べて遜色ないものであるかどうか、期待をこめながら不安も感じて見送ってきました。

東京文化小学校は、この展覧会に出品する常連校でした。この学校はいつも独創的な作品を出す学校だな、と第三者として感心してきました。

数年前のことでした。東京文化小学校の作品が会場の人気を独占してしまいました。それは、ビー玉を転がしていくと、パネルの仕掛けが次々に変化して動く、ダイナミックな共同作品でした。一言で言うと、大きな大きなパチンコの機械とも言えるもので、会場を

訪れた人に、ビー玉を自由にに入れて貰って、動かして楽しんでもらえる作品だったのです。とかく展覧会場には「作品に手を触れないでください。」の注意書が目につくものですが、その年の東京文化小学校の作品の前には、それと正反対の言葉が書かれていました。

この展覧会は、競い合いでない会ですから、〇〇賞というようなものはありませんが、もしも何かの賞があったとすれば、最優秀賞がいただけて、審査委員長から、独創的と出来栄えに対する賛辞もいただけたのではないかと、これは私の想像で独りそのように思っていることですが、そんな思いがしました。

その東京文化小学校にご縁あって職を奉じることになり、今度は内側から「ほらできたよ」展覧会に出品する作品の制作過程を見ることができました。なるほどと納得しました。それは図工担当の森田愛子先生(雅号 犀川愛子)が、学校の美化を考慮され、学校にとつて今必要な備品となるものを題材として選び、児童一人ひとりが時間をかけ、丹精こめて制作に当たれるものを、そして永く学校に記

念として後々に役立つものを作るよう指導しているということでした。

このようにして平成8年度第44期生はクラスの教室はじめ校内各所の標示板を作り、この三月卒業した第45期生は小学校玄関前の外壁を飾るタイルモザイク二面を仕上げた出品しました。

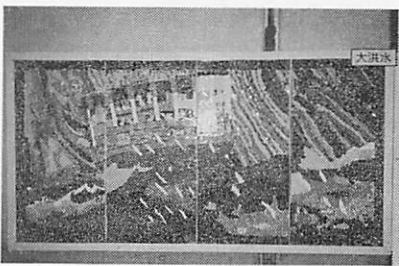
今学年度も、学校にとつて欠かせない、ある大事なものを制作することが決まっていますが、それが何であるかは、展覧会までは大事な「企業秘密」ですので伏せておきましょう。

一昨年の標示板が出品された時には会場で東京文化小学校の作品を見た他校の先生から、標示という実用機能をより一層發揮させるためにはこうしたらよい、という有り難い助言をいただくことができました。それによつて標示板はよりよいものとなりました。私立学校の図画工作研究部の先生方が互いに磨き合うことができ、更に向上することができ、この展覧会の存在理由があるのだと思えました。

今年の第45期生は、旧約聖書創世記にある伝説「ノアの方舟」を題材にしてタイルモザイク画を制作しました。全体が八つのグループに分かれて、四グループで一画面を描きました。第一画面は「大洪水」、荒波逆巻く大海原に漂う方舟(はこぶね)の姿を、第二画



「タイルモザイク」平成8年度制作



「タイルモザイク」平成9年度制作

卒業生の皆様も来校の折りには是非ご覧いただきたいと思っております。

平成11年度児童募集

入学説明会 9月17日(木) 九・四〇分

10月18日(日) 十三・四五分

募集人員 男女合わせて約四十名
◇一次募集 男女約30名 (内部進学を含む)

願書受付 10月19日～11月11日
入学審査 11月13日(金)

合格発表 11月14日(土)
◇二次募集 男女約10名
願書受付 11月16日～11月24日
入学審査 11月26日(木)

合格発表 11月27日(金)
☆入学案内は小学校受付で配布中
お問い合わせ

〇三―三三八―〇二四

♪ ようちえんだより ♪

浅間高原宿泊保育にて

今年も七月十九日から七月二十一日まで、浅間高原宿泊保育が行われました。今年度から、軽井沢まで長野新幹線で行くことになり、子ども達も大喜びでした。

高原寮に着き、昼食をいただき着替えを済ませた後、皆が楽しみにしていたカード探しのゲーム(オリエンテーリング)を始めました。カードを探しながら、「あつ、トウモロコシだ。」東京では



浅間高原寮にて

あまり見られなくなった田畑の景色を見たり、舗装されていない草の道を思い切り走ったり、楽しく過ごすことができました。

二日目は牧場にビクニックに行ったり、夜は星空の下でキャンプファイヤーをしたり、浅間での生活を満喫することができました。

神様に守られ、さわやかな高原の風を感じる中で過ごした二泊三日は、子ども達にとって、楽しい思い出となったことと思います。様々な経験を通して、ひとまわ



プール遊び

り大きくなった子ども達も、二期にどんな成長を見せてくれるのかを楽しみにしています。

(大谷 博美)

あーした

てんきになーれ!

毎年、梅雨時に始まる幼稚園のプール遊び。今年も「明日、お日様がお顔を出したら、プールに入っ

て遊びましょうね」と子ども達に話をしたものの、天候を心配する日が続きませんでした。今年最初のプール遊びの日は、無情にも雨でした。

「先生、今日はプールに入れないね」と残念そうに話をする子ども達でしたが「次はいつ? お日様出るといいなあ」と早くも次回のプール遊びに思いを寄せて、期待に胸を膨らませていました。そして次の日から、登園してくる子ども達の何人かの手にニコニコ顔のてるてる坊主があり、日毎に

てるてる坊主が増えていきました。そんな子ども達の思いが通じたのか延期をした当日は、時折太陽が顔をのぞかす暑さとなり、第一回目のプール遊びを実施しました。

水着への着替えをあっという間に済ませ、屋上に向かう子ども達の足取りは軽く、準備体操を終えるといよいよプール遊びの始まりです。パッションと大きく水しぶきをとばしている子、浮き輪に

お尻をいれてブカブカ浮いている子……。それぞれが水と仲良しになって、ダイナミックに遊んでいました。

また、台所用洗剤等の空き容器を利用した水鉄砲では、保育者に水を絞り、前から後ろからピューと水をとばしてビシヨ濡れにすることを楽しんでいました。約三十分のプール遊びですが、最終回を迎える頃には水着のあとが残りました。

九月には、真っ黒に日焼けをし、心も体も成長した子ども達も、幼稚園に戻ってきます。そして更に一人一人が自分の世界を広げ、歩んでゆくことでしょう。

(工藤 総子)

子供の教育相談室

お気軽に相談を

子どもの自殺、家庭内暴力、登校拒否など、子どもの教育をめぐる諸問題が、新聞の社会面ににぎわしている昨今です。

東京文化幼稚園では、一人一人のお子さまの健全な成長を願い、少しでもお母様方のお悩みを解決したいと、子どもの問題では第一人者の石井哲夫先生にご協力頂いて、「子ども教育相談室」を開設してから十四年目を迎えました。

石井先生は、日本社会事業大学

の教授で、子どもの生活研究所の所長でいらっしゃいます。

お子さまの発達が順調かどうか確かめたい方、知能テスト、心理テストの測定をご希望の方、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

相談日は毎週金曜日、午後一時から午後四時までで、お一人の所要時間は、約一時間三十分です。相談には子どもと生活研究所の山本清恵先生があたります。

予約により時間を決めますので、幼稚園(電話三三八一・二一八三)までお申し込み下さい。相談料は五千円です。

平成十一年度 園児募集

園児募集

公開保育日

9月18日(金)

雨天の場合

9月21日(月)

(9:30~11:00)

入園説明会

10月14日(水)

(2:30~3:30)

願書受付

10月31日(土)のみ

入園児諸検査11月1日受付順に実施

三歳児男女 40名

四歳児男女 10名

五歳児男女 若干名

を募集します。幼稚園案内を配布中です。(無料)

お問合せ 三三八一・一一八三

東京文化幼稚園

「カナダ林檎の木」

元学長森本武也先生・奥様の
儔子先生がこの世を去られ早幾
歲月、このたび、御子息の光生
先生、晴生先生が、ありし日の
両先生の御業績・所縁の方々
による文章・写真・又、儔子先生
が、遠く美術の勉強にカナダに
留学の際の数々の作品を一冊の
本にまとめられました。

この御本は、日本の良き時代の
知的な上流社会を伺い知る事
の出来る単に森本家の歴史であ
るばかりではなく、両先生の直
接の教えを受けることになつた
時代の同窓生にとりましても
お二人のお人柄に接し、心暖ま
る思いでございます。又、これ
からの新家庭を築かれる若い世
代の同窓生にとりまして、誠
に理想的な御家庭像を築く指針
としてもぜひ必要な宝玉集です。
尚、この御本は光生先生・晴
生先生の御好意により、多数同
窓会に寄贈されましたので、ご
希望の方には、同窓会として、
一部三千円(送料込み)にて頒
布しておりますのでお申出下さ
い。

(三雲記)

森本厚吉先生の御家庭の
想い出

経専・家庭科18 伊藤 栄子
今から考えると半世紀以上の
年月が過ぎたことになりましたが、
まるで昨日の事のように思い出
されます。儔子先生の御逝去心
よりお悔み申し上げます。

初夏の頃だったと思います。
厚吉先生のお招きでクラス中の
一同が、学校からほんとお近
い先生のお宅に伺いました。当
時ではまだ珍しい網戸が先生の
お宅にはとり付けられていて、
僕は蚊帳なんか吊りませんよ、
窓からいい風が入って網戸のお
かげで涼しく寝られますよ、と
ベッドルームも見せて頂きまし
た。

その時初めて儔子先生にお目
にかかったのです。ニューヨーク
からお土産に持ち帰られたパ
イナップルの缶詰を、学生の私
達に御馳走して頂いたのを覚え
ております。日米開戦後ですし、
食糧も少しずつ事情の悪くなり
つつあった時ですから、ほんと
に貴重な物でした。お若くお美
しい儔子先生でした。

厚吉先生が、武也は今、パター
ン、コレヒドル作戦に参加し
て戦っているようです、とのこ

とで、御結婚直後の御出征でし
た。厚吉先生はそのとき自ら、
ベートーベンのソナタを弾いて
下さり、何よりの思い出となり
ました。

静子先生からはアメリカでの
生活を沢山伺い、特にお嬢様の
井上大使夫人の外国での生活を
伺ったり、戦時中にあの様なア
メリカでの生活事情を知る事が
出来て大変参考になりました。
実は、一九五五年から一年間、
主人の留学で私も渡米し、森本
先生御夫妻のお話を伺った事が
大変役に立ったのでございます。
今でこそ海外旅行は珍しくあり
ませんが、当時は渡航も政府の
許可がむづかしい時代だったの
です。ともあれ森本先生御夫妻
からは自由に考えること、世界
には文化の違う生活があるのだ
から、知っておくこと、これは
私の人生に大変有意義なもので
した。

未だ戦争や空襲の激しくない
良い時代だったと思います。森
本先生の御家庭はほんとに奥様
の静子先生、お嫁さんの儔子先
生に対しても、相手の人間性を
尊重され、明らかに言葉づかい
から端々に至るまで個人を立て
られた、和やかさを感じられる
御家庭のようにお見受けしまし

た。

地方から出て来た私共にとつ
て、家庭の在り方を改めて考え
させられました。先生の御家庭
は時代の先覚的な方向を示して
下さったと思います。

短大部総会の
お知らせ

盛夏の候、皆様にはお元気で
ご活躍のことと存じます。

平成十年の短大部総会を左記
のように開催致します。東京ベ
イを目前に、絶好のロケーション
の景観の中で、楽しい語らい
の時を持ちたいと思います。

皆様お誘い合わせの上、多数の
ご出席をお待ちしております。

記

日時 10月17日(金) 12時30分
場所 ホテルインターコンチネ
ンタル東京ベイ

電話 (03) 五四〇四一二三二
交通 新橋から「ゆりかもめ」で
竹芝駅下車、ホテルに直結
会費 八、五〇〇円
申込先 千一六四一八六三八
(住所不要)

東京文化化学園同窓会短大部
総会宛

9月30日までにハガキでお
申込み下さい。

会計報告

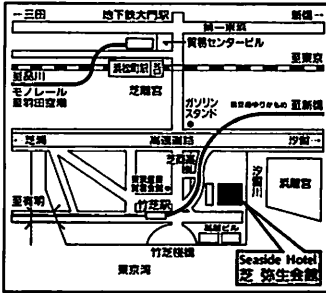
一般会計収支 (平成9年度) (円)

収入	会費収入他	6,909,832
	前年度より繰越	421,446
	計	7,331,278
支出	諸費用	6,386,815
	次年度へ繰越	944,463
	合計	7,331,278

資産残高 (平成10年3月31日) (円)

一般会計	現預金	14,180,228
施設拡充準備金	現預金	9,944,740
事業部会計	現預金	13,621,355
会報部会計	現預金	445,528

詳細は幹事会資料をご請求ください。



●JR、モノレール……浜松町駅(北口)下車 徒歩約7分
 ●地下鉄……西宮浅草線大門駅下車 徒歩約10分
 ●新交通ゆりかもめ……竹芝駅下車 徒歩約1分

部総会宛
 東京文化学園同窓会高女高校
 〒一六四一八三八(住所不要)
 (月・水・金の10時~3時)
 TEL(03)三三八一〇一九六
 申込締切 10月20日ハガキ又は
 (03)三三三三三三三三
 会費 六千円(当日ご持参下さい)
 日時 平成10年11月21日(土)
 正午より(総会・昼食・懇親会)
 場所 芝 弥生会館
 港区海岸1-10-27
 (03)三三三三三三三三
 日時 平成10年11月21日(土)
 正午より(総会・昼食・懇親会)
 場所 芝 弥生会館
 港区海岸1-10-27
 (03)三三三三三三三三

両部会が合併されて初めての総会です。眺望の良い会場は宿泊設備も完備。羽田・東京駅からの交通の便もよく遠方から御参加の方々にも都合です。多数の御参加をお待ちしています。

高女高校部会
 (むつみ会)のお知らせ

東京文化学園同窓会支部一覧

平成10年10月1日現在

北海道札幌支部長	玉木美佐	003-0805	札幌市白石区菊水五条3-4-32	☎ 011-823-8288	専門20
帯広支部長	川上幸子	080-0817	帯広市依田町6	☎ 0155-23-2201	短大28
青森支部長	木村正枝	030-0846	青森市3青葉3-13-2	☎ 0177-39-5010	専門16
秋田支部長	那波ノブ	010-0905	秋田市保戸野中町6-14	☎ 0188-62-2570	専門15
岩手支部長	佐藤栄子	020-0004	盛岡市山岸6-38-27	☎ 0196-61-8453	短大30
山形支部長	星信子	990-2323	山形市飯田5-23-15	☎ 0236-41-7547	専門16
副支部長	斎藤節子	999-8300	山形県飽海郡遊佐町字堅田31	☎ 0234-72-2438	医技31
宮城支部長	山田房子	989-2351	宮城県亶理郡亶理町中町55	☎ 0223-34-3080	短大33
新潟支部長	山村さち子	940-0047	長岡市弓町1-3-21	☎ 0258-32-1237	専門24
福島支部長	岡部ますみ	963-0201	郡山市大槻町熊野木34(連絡は副支部長へ)	☎ 0249-51-1631	専門19
副支部長	渡部記子	967-0006	南会津郡田島町永田字大道上350	☎ 0241-62-1129	短大33
富山支部長	布村清子	939-8073	富山市大町一区南部43-5	☎ 0766-25-3557	高女20
支支部長	吉田のり子	939-1401	砺波市東保598-2	☎ 0763-37-0170	短大47
長野支部長	山崎さち子	390-0303	松本市浅間温泉1-26-29	☎ 0263-46-0882	短大30
副支部長	栗林光江	389-0603	埴科郡坂城町南条2,304	☎ 0268-82-2273	短大39
茨城支部長	山田よし	319-1541	北茨城市磯原1,215-3	☎ 0293-43-1800	専門15
副支部長	山田節子	308-0826	下館市上岡崎165-11	☎ 0296-22-6007	短大35
栃木支部長	戸部八重	320-0861	宇都宮市西2-2-30	☎ 0286-34-6589	専門16
副支部長	豊島玲子	323-0827	小山市神島谷1,085-4	☎ 0285-23-1844	短大29
群馬支部長	塚田幸枝	371-0017	前橋市日吉町2-6-11	☎ 0272-31-7090	専門17
副支部長	佐藤春枝	371-0832	前橋市朝日ヶ丘1-7	☎ 0272-51-6850	医技31
副支部長	関口貴美恵	371-0034	前橋市昭和町3-8-10	☎ 0272-32-3751	短大28
静岡支部長	島田良香	430-0905	浜松市下池川町2-11	☎ 0534-71-2569	短大31
岐阜支部長	林志志	504-0836	各務原市那加繁雀町37	☎ 0583-82-0770	専門9
副支部長	友枝節子	500-8014	岐阜市夕陽丘11	☎ 0582-62-8895	専門19
愛知支部長	野田梅子	458-0003	名古屋市長区黒沢台4-504	☎ 052-876-3609	専門5
副支部長	朽木美代子	465-0862	名古屋市長区松井町311	☎ 052-703-7716	高女13
鳥取支部長	中田正子	680-1131	鳥取市馬場14	☎ 0857-22-3409	専門6
兵庫支部長	上田文子	651-2102	神戸市西区学園東町1-3-116-204	☎ 078-793-2548	短大38
岡山支部長	柳田睦子	700-0956	岡山市新田490-298	☎ 0862-43-7931	短大36
副支部長	小橋美恵子	700-9210	岡山市東古松5-8-29	☎ 0862-31-4870	短大42
広島支部長	小沢是子	732-0033	広島県東区温品6-3-12	☎ 082-289-1021	短大38
高知支部長	森美佐子	780-8122	高知市高須新町4-8-3	☎ 0888-83-8227	短大40
副支部長	西山迪代	780-0901	高知市上町1-11-34	☎ 0888-23-5445	短大41
和歌山支部長	堀本京子	649-3500	西牟婁郡串本町串本1851	☎ 07356-2-0057	短大41
副支部長	藤野美千代	649-3000	西牟婁郡串本町串本1392	☎ 07356-2-3988	短大38
愛媛支部長	鎌田徳子	796-0035	愛媛県八幡浜市須崎2-1455-1	☎ 0894-24-4491	短大31
副支部長	鷹田喜美代	792-0856	新居浜市船木2995-1	☎ 0897-41-6888	短大35
福岡支部長	龍乙栄	832-0072	柳川市靴屋町48	☎ 09447-2-2213	専門21
副支部長	森田幸子	824-0200	福岡県京都郡犀川町大熊字一木306	☎ 09304-2-1334	専門11
大分支部長	森田尚子	876-2401	大分県南海部郡瀬江町大蒲江浦3381-3	☎ 09724-2-0005	短大32
副支部長	麻生イシ	876-0836	佐伯市西谷5班	☎ 09722-2-8018	短大40
宮崎支部長	中手民子	885-0051	都城巖蔵町8-2	☎ 0986-22-3137	短大42
副支部長	中塚京子	880-0024	宮崎市祇園町1-71	☎ 0985-22-4094	短大44
長崎支部長	岩永純子	855-0852	長崎県島原市寺町6239	☎ 0957-62-2411	専門16
副支部長	植木龍子	859-2502	長崎県南高来郡口之津町甲1642	☎ 0957-86-2353	短大32
熊本支部長	林田陽子	860-0041	熊本市細工町5-2	☎ 0992-55-3687	専門12
鹿児島支部長	堀川ミヨ	890-0061	鹿児島市天保山町13-15	☎ 0992-61-6328	短大36
副支部長	高山高子	890-0142	鹿児島市和田町883-6	☎ 0992-61-6328	短大36
沖縄支部長	阿波根由子	904-0032	沖縄市諸見里3-9-6	☎ 09893-3-0822	短大37

支部会

愛知支部

高女18 朽木美代子

平成十年六月二十六日愛知、岐阜支部会を名古屋駅前「料亭千代田」で開催いたしました。

湊くに先生、中川悦先生をお迎えして二十七人の同窓生が集まりました。両先生からお優しいご挨拶を頂き、一同学生時代に戻り和やかな賑やかな席になりました。林志づ様(専五期)から始まって落合麗様(五九年卒)まで、それぞれ自己紹介していただきました。昭和初期の学園の話、名古屋に住むようになった話、ご自分の病気の事、初めて支部会に出席して喜んで下さったことなど、皆様の色々なお話が聞けて、幹事一同の苦労が報われたようです。

柴田様が、野田うめ支部長のご主人様野田稲吉様を偲びました。よと、聞香をいたしました。昨年九月九十五才で逝去された野田博士は、名古屋大学在任中にされた合成雲母に関する研究などによって日本学士院賞を受賞なさいました。その時森本厚吉先生が大変お喜び下さったと伺いました。好奇心の強い柴

田様はその後野田様から雲母を頂いたそうです。その雲母で御香を焚いて下さいました。野田支部長は只今病氣療養中ですが、どうぞお苦しいことのないように安らかな毎日をお過ごし下さいませよう、心からお祈り申し上げます。

東京からご出席下さいました両先生、ありがとうございます。和歌山から、関西から、三重県から皆様お忙しい時にありがとうございます。皆様の暖かいお心づかいとご協力で楽しい支部会を開くことができました。厚くお礼申し上げます。幹事の皆様本当にご苦労さまでした。紙面をお借りして御礼申し上げます。

第12回同窓会 海外旅行について

今年も海外旅行を実施することに決まりました。期間 平成10年10月8日〜15日 場所 トルコ 申込締切り 8月31日

少し遠方ですが東西文明の交流点で渾然とした文化、景色も珍しいものです。皆さんご参加をお待ち致します。

(註) 募集締切日と泉の発送

観劇会

平成十年度は四月二十五日(土)に芸術座で「隠れ菊」を鑑賞しました。今回は一か月で七五〇席の切符を完売できました。諸費用を差し引いて百四〇万三〇三〇円の純益を上げることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

一枚の写真から

短49 大島 恵子

昨年の秋、七十年史を一冊、母のもとへ届けました。一ページごと丁寧な丹念に老眼鏡と拡大鏡を手にながら、過ぎ去った時をゆつくりとたぐりよせるかのようになつかしむ母。数週間後の日曜日、拡大鏡とともに手渡され開かれたページには、五十五年前の母の姿がありました。戦争で消失してしまった青春時代の写真が七十年史とともに再びもどってきました。その日を機に、以前にも増して

どのような学びの時代であったのかを耳にすることが多くなりました。四〇〇ページを越えるこの本の重みとともに建学の精神の重みを再認識しております。

大島さんのお母様は、平山道子さん(専門18旧浜田)です。

松尾先生から

昨秋、七十周年を祝して同窓会の記念総会が開かれた折、元中高教諭の松尾淳子先生(保健体育科)から、東京文化学園及び同窓会の繁栄を大変喜んで下さって「何かのお役に立てて」と御芳志をお送り頂きました。会としては形に残るものをと相談し、同窓会事務室入口に姿見の鏡を取り付けました。有難うございました。

お礼の電話をかけたところ、相変らず在任中に「ひばりがさえずるよう」と定評の美声でお元氣なご様子でした。松尾先生のご住所 〒88010211 宮崎県宮崎郡佐土原町下田島 一一五六の一

〇九八五一七二二二二九

(黒澤記)

謹んでおくやみ 申し上げます

(敬称略)

- 松川 つる 経専6
- 鬼頭 英子 経専6
- 李 永愛 経専6
- 村瀬みどり 経専14
- 島田 フミ 経専15
- 関口 カク 経専15
- 村山まさ子 経専16
- 中村 サダ 経専16
- 小川 君江 経専19
- 福井 晃子 経専21
- 鈴木ノブ子 経専22
- 森谷 芳子 高女13
- 村田美代子 高女13
- 池田すず子 高女18
- 斉藤チエ子 高女19
- 多賀谷英子 高女20
- 見上あつ子 高女21
- 山名寿満子 短大29
- 高宮 康子 短大42
- 前野 由美 短大44
- 白井美津子 小 31
- 松浦 靖 小 31

発行所 東京都中野区本町 6-38-1 〒164-8638
 東京文化学園同窓会
 電話 03-3381-0196 (内線 232)
 FAX 03-3381-7866
 発行人 湊 くに
 編集人 青木 純子
 印刷所 株式会社 神木印刷